

~いつまでも~

地域で暮らし続けたい！を実現する みんなの支え合い活動！



地域の絆

~私たちにできること~



団塊の世代が75歳以上となる2025年（平成37年）には、3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上になると予想されています。

《これからの地域社会の実情・・・》

- ①ひとり暮らし高齢者・高齢者世帯の増加
- ②認知症高齢者の増加
- ③担い手（若者など）や福祉の専門職が急速に不足
- ④日常生活の支援活動（生活課題）の増加 など

★これからの地域社会がめざすもの

年をとっても、障がいがあっても、「住み慣れた地域で、できるかぎり元気で、安心して暮らし続けることができる地域」の実現をめざしています。

「住まい」を中心に、「医療」・「介護」・「予防」・「生活支援」といった必要なサービスや支援が一体的に提供される仕組み（つながりのある地域社会）を構築していきます。このことを、《地域包括ケアシステム》といいます。《地域包括ケアシステム》の実現に向けた体制の充実・強化を図るため、平成28年4月から『生活支援コーディネーター』が総社市より社会福祉協議会に事業委託され、配置されました。

●生活支援コーディネーターってどんな人？

地域の特性や課題を把握したり、地域での支え合い活動の発掘や、新たな支え合い活動の創出、「人と地域と活動」をつなぐ推進役です。

- ① 地域資源を把握し情報を発信します
- ② 支え合い活動の担い手を増やします
- ③ 住民主体の支え合い活動を応援します
- ④ たくさんの笑顔をつなげます

